

(1) 定時評議員会の開催

日時：6月 場所：新宿せいが子ども園

（議案）令和3年度計算書類及び財産目録の承認、他

(2) 理事会の開催

6月 令和3年度事業報告及び決算報告の承認 監事監査報告承認 他

理事長による職務執行報告

1 2月 令和4年度補正予算案の承認、規則・規程の改廃 他

理事長による職務執行報告

3月 令和4年度最終補正予算案 令和5年度事業計画及び当所予算案の承認 他

理事長による職務執行報告

場所 新宿せいが子ども園

(3) 令和3年度事業報告及び決算報告の監事監査会の開催

日時：5月 場所：新宿せいが子ども園 出席監事2名

(4) 研修への参加

東京都及び東京都社会福祉協議会・東京都民間保育園協会等主催法人研修

(5) 海外施設視察研修補助事業

海外乳幼児教育施設研修参加補助 施設職員 若干名

(6) 東京都保育士等キャリアアップ研修の指定手続き及び保育士等キャリアアップ研修の実施

日時・場所 未定

令和4年度

省我保育園 事業計画

社会福祉法人 省我会 省我保育園

第1章 令和4年度 基本理念に関する事業計画

1 はじめに（保育園を取り巻く状況）

(1) 国の状況

ここ数年の中では、大きな変化がなかった1年であった。今までの流れとして、社会福祉法人の改訂、国の運営費の複雑化、保育料の無償化など、大きな変化があった。

このような社会の動きに対し、待機児解消のためにやむを得ない変化もあったが、“福祉”というものに対するとらえ方が変わってしまったことに問題点があるように思う。

施設を大幅に増やさなければならぬ過程の中で、利益追求が基本である株式会社を導入したため、運営ではなく経営に変わってしまった。そのような視点になると、競争が始まり、保育園の淘汰が生まれる。政府は競争原理によるサービスの向上をねらっているが、福祉に必要なことは、競争や経営ではなく、子どもにとって必要なことは何かという視点であり、経営ではなく、その地域に存在するという意義である。100人の子どもを集めるのではなく、1人1人の子どもと向き合うことである。

様々な地域での待機児の解消が進む中、保育園の存在する意味を、園長などを通して、問いかけていきたい。

委託費（運営費）に関しては、園児一人当たりの単価（保育単価）がわずかに増額された。物価指数に連動していることによる増加であるが、公立の人件費の指標となる人事院勧告は本俸の約3%を減額した。その補填のために政府は処遇改善を発表した。民間保育園も補填額は支給されるが、園によって異なり、一人5千円～1万円程度である。この件は、給与規程改訂で詳しく説明する。

なお、新型コロナウイルスに関しては、収束するが予測されるため、コロナ後の保育を考えていきたい。

(2) 東京都の状況

東京都も国と同様、大きな変化はなかった。補助金額は変化が見られない。今年度は、コロナ後の社会に対し、なにかしらの変化はみられるだろうと考えている。

【待機児の変化】

待機児は確実に減少してきている。2020年の東京都の待機児は、2,343人だったが、2021年は969人に減少。待機児が多い23区は中央区と江戸川区であり、この数年、同じ傾向である。なお、就学前児童数はこの1年で

1 万人以上、減少している。多摩地区では待機児が依然として多く、小平市 86 人、三鷹市 70 人、国分寺市 48 人、調布市 46 人などとなっている。職員の宿舍借上げ補助金では、東京都の財政が厳しい状況にあるが、今年度は継続する。

(3) 八王子市の状況

【待機児の状況】

令和 3 年度の八王子市の待機児は全体で 19 人。近隣の市では日野市 35 人、昭島市 15 人、立川市 26 人、多摩市 12 人となっている。

ちなみに隠れ待機児なども報道されるが、その実態は不確定である。確実に待機児解消が進んでいる。一方で保育園の定員割れが目立ってきている。この件に関しては、『国の状況』のところで述べている。

2 令和 4 年度 運営の目標（事業計画の基本方針）

省我保育園は平成 30 年度に大規模な修繕を行った。すでに 3 年が経過したことになる。環境的には特別な問題がなく、スムーズな運営を進めることができてきているが、職員の状況には波があり、一度、問題が発生すると、なかなか解決が難しい。その点で派遣職員は有効であるが、安定感のある保育は望めない。また、待機児が減少し、保育園の新設は少なくなったが、労働条件等で保育士は敬遠されがちである。全体の統計によると、人間関係による退職が約 4 割にも及ぶ。

このような状況を考え、職員の安定、職員の労働環境の見直しを今年度の重点項目にあげたい。

また、新型コロナウイルスについて、収束していくことが予想される。コロナ後の保育はどうあるべきか、以前の状況に戻すのではなく、コロナだから見えてきた側面を意識し、保育の内容を見直していきたい。

以上を踏まえて次の内容を今年度の運営の目標とする。

① 職員の安定と職務内容の明確化

待機児が解消される中、依然として保育士不足の問題は、解決できていない。やはり保育（福祉）に対する意識や意欲が低い職員が入り込んでしまっている。従って採用の工夫ではなく、今いる職員をどう育てるのかという視点に立って、研修、話し合い、保育観の共有を大切にし、安定した職場作りを目指す。

また、職務内容をわかりやすく整理し直し、分かりやすい仕事現場を目指していく。

② 研修の充実と保育内容の再検討

上記のように、職員の安定には意識と意欲を高めるための研修が必要である。コロナ禍で十分にできなかった研修の充実を図っていく。また園内

研修も行っていきたい。

③ 衛生管理の継続

新型コロナウイルスの感染は、まだ、はっきりとわからないことも多い。そのため、習慣となった衛生管理の意識と行動を維持していきたい。ただ、子ども達の生活は以前のような活発な活動は保障していききたい。

3. 中期計画（令和2年度からの3年計画）

中期計画は3年間なので令和4年度も昨年と同じである。

(1) 職員の質の向上と組織の充実、働き方の改善

保育士のキャリアアップ補助金を有効に活用し、保育士の質の向上と職員の組織の変更を考えていく。

同時に、書類作成などの簡素化に取り組みため、運営のソフトを導入し、書類作成の負担を軽くする工夫をする。

(2) 働き方改革の対応

保育園の職員は、その時間、その場所にいることも重要な仕事の内容である。また、職員定数もあるため、働き方改革を進めにくい職種である。そういう条件を受け止めながら、職員の休憩、有給休暇取得を確実なものにするため、工夫を重ねていく。

4. 修繕と固定資産の購入

修繕、固定資産については、特に予定はしていない。予算を見ながら、必要な場合のみ対応していく。

令和4年度事業計画(案)

せいがの森こども園

① 園児の状況

令和4年度の新入園児は、0歳児4名、1歳児5名、3歳児3名、4歳児2名、5歳児1名。定員的には、0歳児：定員9に対して4名、1歳児：定員18に対して16名、2歳児：定員18に対して17名、3歳児：定員20に対して21、4歳児：定員20に対して14、5歳児：定員21に対して21となり、93名でのスタートとなった(うち1号認定児童は2名)。欠員クラス(特に0・1歳児)の年度途中での充足が課題となる。

② 職員体制

令和3年度末をもって常勤正規職員3名が退職(対して、令和4年度の新入正規職員は3名)。派遣職員を含め、市の基準を満たす人数は確保できた。要配慮児の加配など不足している部分は、引き続き非常勤職員の募集をし、体制の確立に努める。保育士人材不足は続いており、離職者を出さない職場風土づくりと効果的な採用活動が課題となる。

③ 園の施設整備

園庭大型遊具、園舎内トイレ配管、照明設備等、老朽化により修繕もしくは撤去が必要となっている。その他園庭小型遊具や幼児クラスの家具など更新すべきものは多いが、安全性の確保と生活の維持という意味から必要度の高いものを優先して計画する。

園庭大型遊具 → 撤去 予算 800,000円

園舎内トイレ配管 → 修理 予算 1,450,000円

園内照明設備 → 更新 月額 50,000円 * 割賦払い

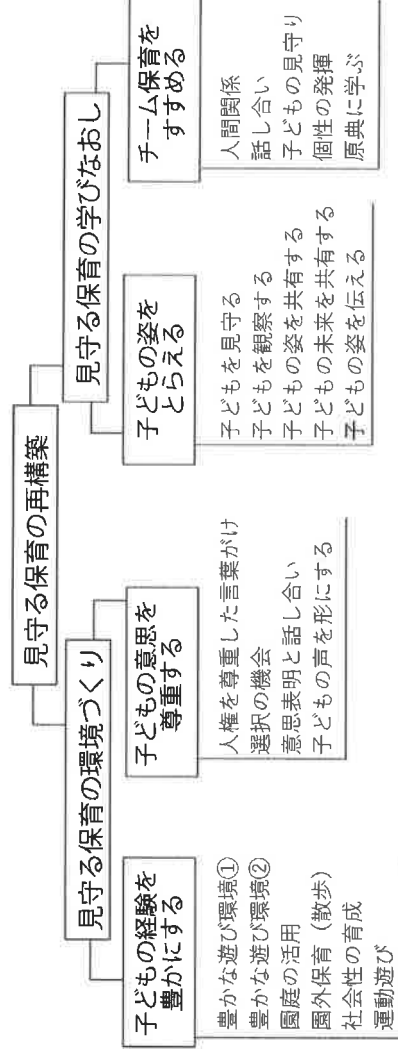
* 園内照明設備については、全設備をLEDに交換し、LEDによる電気代削減見込額とほぼ同額の費用で割賦払いとすることを計画。運営予算に影響なく導入できる見込みである。

④ 運営体制

常勤19名(保育士16名、園長1名、看護師1名、用務1名)。他は派遣、非常勤保育士等。各クラス中堅職員をリーダーに、チーム内の連携・協力体制を強め保育の質とやりがいの両方を高めていく。

⑤ 見守る保育の再構築

令和4年度の大きな課題は、見守る保育の再構築。改めて園の礎である「見守る保育」を見直し保育の質・職員の能力の向上、職員の定着につなげていく。



(5-1) 保育理念の再確認と意識の徹底

保育理念「共生と貢献」を常に意識して保育できるように、理念に対してのキーワード、保育目標として「保育者の姿」を追加する。

*以下、太字が追加部分

保育理念「共生と貢献」 ～かかわりあい みとめあい たすけあい よるこびあう

- かかわりあい ～自立～ 自立した個人として他者を尊重し人間関係をつくっていく
- みとめあい ～自律～ 自分の心をコントロールしながら、他者を認め理解する
- たすけあい ～協力～ よりよい未来に対して力を合わせる
- よるこびあう ～共感～ 仲間の喜びを自分の喜びとして感じられる

保育方針「子どもの主体性を育てる保育」

- ① 子どもの主体的な活動としての生活を保障する保育（生活をはぐくむ）
- ② 子どもの自発的な活動としての遊びを保障する保育（自立をはぐくむ）
- ③ 一人ひとりの特性に応じた保育（個性をはぐくむ）
- ④ 人とのかかわりを大切にしたい保育（社会性をはぐくむ）
- ⑤

保育方法「見守る保育」

- ① 子ども主体の保育
- ② ねらいに応じた選択性の保育
- ③ かかわりを大切にしたい異年齢児保育
- ④ **共感と協働のチーム保育**（職員集団）

保育目標（こどもの姿）「自分らしく意欲的で、思いやりのある子ども」

- ① 自ら課題をみつけ、自ら考え行動する子ども（主体的に行動する子ども）
- ② やりたいことをやれる子ども（意欲的な子ども）
- ③ 自分を好きになる子ども（自尊心をもてる子ども）
- ④ 人の喜びを喜べる子ども（思いやりのある子ども）

保育目標（保育者の姿）「意欲的で思いやりがあり、共感・協力でできる保育者」

- ① 課題をやりたいことをみつけ、自ら考え行動できる保育者（主体的・意欲的に行動する保育者）
- ② 相手を認め、自分とともに大切にできる保育者（公共意識を持ち、他者理解ができる保育者）
- ③ 問題解決・よりよい未来に向けて協力でできる保育者（協力・協働する保育者）
- ④ 前向きな気持ちを持ち人に共感できる保育者（共感のある保育チーム）

（⑤-2）見守る保育の再構築のための5か年計画

令和4年度を、「見守る保育の再構築」のための5か年計画の1年目と位置づけ、具体的に計画を立て取り組んでいく。

⑥ 地域の子育て支援

子育て支援センターわくわく（子育て広場事業型）を継続。令和3年度の課題であったコロナ禍での運営規模の縮小をできる限り挽回し、地域の子育て支援・連携を深め、1号児童の入園につなげられるよう工夫していく。

⑦ 地域との連携

（⑥-1）長池小学校との連携

令和2年度、3年度と大幅に減少していた長池小学校との連携活動を、状況を見ながら復活させ、広げていく。小学校への接続を見据えた活動ではあるが、年間を通しての継続的な交流も意識していく。

（⑥-2）せいがの森サポートスタッフ

令和2年度、3年度と実施できなかつた卒園児のボランティア活動についても、状況を見ながら復活させ、異年齢の関わりを広げ、年長児の小学校への期待につなげていく。

（⑥-3）NPO フェージョン長池との連携

長池公園を管理するNPO、フェージョン長池との連携による幼児クラスの自然探検活動も、状況を見ながら復活させ、子どもたちの経験を広げていく。

以上

社会福祉法人省我会 新宿せいが子ども園
令和4年度 事業計画 (案)

【重点項目】

(1) 園児数 定員 177名 (1号認定6名、2号3号認定171名) 定員 現員 (4月1日)

1号認定児(3-5歳児クラス、幼稚園機能)	3歳児	2名	1名
	4歳児	2名	2名
	5歳児	2名	1名
	計	6名	4名
2号認定児 (3-5歳児クラス、保育園機能)	3歳児	30名	27名
	4歳児	30名	30名
	5歳児	30名	30名
	計	90名	87名
3号認定児 (0-2歳児クラス、保育園機能)	0歳児	21名	10名
	1歳児	30名	30名
	2歳児	30名	30名
	計	81名	70名
	総計	177名	161名

(2) 職員体制

園長1名 副園長2名 保育士27名 保育補助1名 看護師1名
管理栄養士1名 栄養士1名 調理師2名 児童心理士1名
環境マイスター1名 パート2名 (一時保育&調理) 計 40名

(3) 改修修繕等工事他

1. 地下職員休憩室改装工事 300万円
2. 園舎外壁修繕工事 400万円
3. 空調設備清掃 100万円
計 800万円

以上

社会福祉法人省我会

千代田せいが保育園

(理事会用)

令和4年度 事業の重点計画(概要)

千代田せいが保育園

(1) 令和4年度の概要

- (ア) 定員51名に対して4月は50名でスタートする予定。
- (イ) 施設設備の変更など大きな手直しはなし。
- (ウ) 職員の数は変わらず(常勤保育士1名新宿せいがと相互異動の予定)ただし、6月末に保育士1名、栄養士1名退職予定。それを見越して4月に採用予定
- (エ) 新型コロナ対策を昨年に続き継続する。
- (オ) 感染症・暑さ・台風・河川氾濫等の自然災害対策

(2) 医療的ケア保育

- (ア) 1歳児で1名受け入れ。3歳児の園児の妹。
- (イ) 在宅介護の看護師と連携するための業務委託契約(区の予算内)
毎月50万円(上限)の範囲内で

(3) 乳幼児教育法に則った保育と地域支援

- (ア) 地域農業の持続可能性を支援しながら安全な冷凍食品を活用する
- (イ) 年間テーマ「風と光と水と」をSTEM保育で展開する
- (ウ) 動物福祉や倫理的消費などを通じた食育の発展

(4) 保護者支援・地域支援

- (ア) パパ先生ママ先生の保育体験 父親保育
- (イ) 地域向け育児講座・出産前の家庭への保育所体験・小中高生の育児体験

(ウ) 保健所主催の出産前の睡眠講座開催への働きかけ
(コロナでできなかつたために継続する)

(5) 施設・設備、備品購入

- (ア) ポータブル発電機の購入 15万円(機能強化推進費)
- (イ) 河川氾濫区域のため止水版の購入 10万円
- (ウ) 屋上のクッションマットのリプレイス 50万円